



2023年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年6月14日

上場会社名 プレミアアンチエイジング株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4934 URL <https://www.p-antiaging.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松浦 清
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 上原 祐香 TEL 03-3502-2020
 コーポレートコミュニケーション本部長
 四半期報告書提出予定日 2023年6月14日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2023年7月期第3四半期の連結業績（2022年8月1日～2023年4月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年7月期第3四半期	20,609	△20.4	42	△97.8	43	△98.0	△153	-
2022年7月期第3四半期	25,896	9.0	1,957	△55.8	2,141	△51.5	1,222	△56.8

(注) 包括利益 2023年7月期第3四半期 △165百万円 (-%) 2022年7月期第3四半期 1,248百万円 (△55.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年7月期第3四半期	△17.58	-
2022年7月期第3四半期	140.18	139.97

(注) 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失のため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年7月期第3四半期	13,262	8,182	61.7
2022年7月期	12,300	8,348	67.9

(参考) 自己資本 2023年7月期第3四半期 8,182百万円 2022年7月期 8,348百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年7月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2023年7月期	-	0.00	-		
2023年7月期（予想）				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年7月期の連結業績予想（2022年8月1日～2023年7月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	26,500	△21.9	△720	—	△710	—	△720	—	△82.57

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）—、除外 一社（社名）—

（注）特定子会社の異動には該当いたしません。2023年1月31日付で株式取得した株式会社ベネクスを第2四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（注）詳細は、添付資料P.7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年7月期3Q	8,720,534株	2022年7月期	8,720,534株
② 期末自己株式数	2023年7月期3Q	155株	2022年7月期	155株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年7月期3Q	8,720,379株	2022年7月期3Q	8,720,216株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、一部に弱さがみられるものの、経済活動の正常化が徐々に進み、緩やかに持ち直しております。また景気の先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあり、引き続き回復していくことが期待されます。このような中、国内化粧品市場についても、3月からのマスク着用義務の解除、5月からのコロナの5類への引き下げにより、街中ではマスクを外す人も見かけるようになり、回復が続くと予想されます。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっており、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要があります。

このような状況の下、当社グループは、設立以来「uniqueであること」にこだわりを持ち、当社の強みである「商品企画力」「マーケティング力」に「定期販売モデル」を組み合わせて、主力の化粧品事業の伸長を図るとともに、新たにインナーケア事業やリカバリー事業に進出するなど、アンチエイジングに関わる事業領域の拡大を推進してまいりました。

「デュオ」ブランドは、本年2月から新たなテレビCM「バームの王様」をスタートし、限定商品「デュオザキングダム クレンジングバーム」を投入、既存顧客へのアプローチを強化するなど、主力ブランド「デュオ」の減少に歯止めをかける施策を展開していますが、クレンジング市場及びバーム剤型の競争激化が継続していることや、より一層のLTV改善に向けた新規獲得施策が想定通りに効果を出せず、新規獲得が低位で推移しており、売上高は、通信販売・卸売販売ともに減少しました。本年5月からは、インバウンド需要の獲得を目指した新商品「抹茶バーム」を投入するなど、引き続き「デュオ」ブランドの売上回復を図っています。

「カナデル」ブランドは、訴求力の高い医薬部外品の「プレミアバリアフィックス」や「プレミアホワイト」を中心に着実に売上を伸ばしています。「プレミアリフト」を医薬部外品化したリニューアル商品を通販チャンネルに展開し、新規獲得の最大化を目指してまいります。

「クレイエンス」ブランドは、テレビCM等のマスマーケティングを活用したメディアミックス戦略により認知度を高め、通信販売・卸売販売のチャンネルを通じて売上の拡大を図っています。足許では、積極的なクロスセル施策によりLTVが上昇傾向にあることから、新規獲得を強化しています。医薬部外品の白髪カラーの投入や、スカルプケアシリーズの新たな展開により、総合的なヘアケアブランドとしての育成を図ってまいります。

上記活動の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は20,609,823千円（前年同期比5,287,067千円減）、営業利益は42,547千円（前年同期比1,914,942千円減）、経常利益は43,447千円（前年同期比2,098,185千円減）、親会社株主に帰属する四半期純損失は153,280千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益1,222,406千円）となりました。

なお、当社グループは化粧品の製造・販売事業とその他の事業を行っておりますが、その他の事業については金額的な重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産、負債及び純資産の状況は次の通りであります。

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して961,730千円増加し、13,262,177千円となりました。主な増減要因は、次のとおりであります。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して187,948千円減少し、11,328,984千円となりました。これは主に、現金及び預金の増加1,474,755千円、売掛金の減少811,128千円、製品の減少1,306,279千円、流動資産「その他」に含まれる未収還付法人税等の増加378,976千円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して1,149,678円増加し、1,933,193千円となりました。これは主に、無形固定資産「その他」に含まれるソフトウェア仮勘定の増加446,403千円及びのれんの増加547,893千円によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比較して1,126,978千円増加し、5,079,406千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して、301,838千円増加し、3,522,380千円となりました。これは主に、短期借入金の増加346,000千円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して、825,139千円増加し、1,557,026千円となりました。これは主に、長期借入金の増加741,048千円によるものであります。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比較して165,248千円減少し、8,182,771千円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失153,280千円によるものであります。

その結果、自己資本比率は61.7%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年7月期の通期業績予想につきましては、当社グループの主要販売商品である化粧品の市況動向や当第3四半期連結累計期間における業績の進捗状況等を勘案し、現時点で入手可能な情報や予測等に基づき通期の連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては本日（2023年6月14日）に別途公表いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,973,269	4,448,024
売掛金	3,071,846	2,260,718
製品	3,784,814	2,478,535
原材料及び貯蔵品	576,394	652,927
その他	1,110,607	1,488,777
流動資産合計	11,516,933	11,328,984
固定資産		
有形固定資産	110,246	129,020
無形固定資産		
のれん	-	547,893
その他	266,267	841,818
無形固定資産合計	266,267	1,389,712
投資その他の資産	407,000	414,460
固定資産合計	783,514	1,933,193
資産合計	12,300,447	13,262,177
負債の部		
流動負債		
買掛金	435,845	393,054
短期借入金	390,000	736,000
1年内返済予定の長期借入金	322,114	369,948
1年内償還予定の社債	-	26,600
未払金	1,568,285	1,297,350
未払法人税等	165,723	31,681
賞与引当金	18,607	27,725
その他	319,964	640,020
流動負債合計	3,220,541	3,522,380
固定負債		
社債	-	76,600
長期借入金	701,114	1,442,162
資産除去債務	30,772	38,264
固定負債合計	731,886	1,557,026
負債合計	3,952,427	5,079,406
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,351,544	1,351,544
資本剰余金	1,351,544	1,351,544
利益剰余金	5,622,227	5,468,946
自己株式	△1,313	△1,313
株主資本合計	8,324,004	8,170,723
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	24,016	12,048
その他の包括利益累計額合計	24,016	12,048
純資産合計	8,348,020	8,182,771
負債純資産合計	12,300,447	13,262,177

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年8月1日 至 2022年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年4月30日)
売上高	25,896,891	20,609,823
売上原価	5,235,023	4,924,828
売上総利益	20,661,867	15,684,995
販売費及び一般管理費	18,704,377	15,642,447
営業利益	1,957,490	42,547
営業外収益		
受取利息	967	1,168
保険解約返戻金	35,693	—
為替差益	134,174	—
受取手数料	—	5,780
雑収入	28,120	15,180
営業外収益合計	198,956	22,128
営業外費用		
支払利息	11,674	12,446
為替差損	—	7,904
雑損失	3,138	877
営業外費用合計	14,813	21,228
経常利益	2,141,632	43,447
税金等調整前四半期純利益	2,141,632	43,447
法人税等	919,225	196,728
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,222,406	△153,280
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	1,222,406	△153,280

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年8月1日 至 2022年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年4月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	1,222,406	△153,280
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	25,599	△11,967
その他の包括利益合計	25,599	△11,967
四半期包括利益	1,248,005	△165,248
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,248,005	△165,248

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第2四半期連結会計期間において、株式会社ベネクスを買収したため、連結の範囲に含めております。なお、2022年12月31日をみなし取得日とし、当第3四半期連結会計期間より損益計算書を連結しております。

また、持分法適用の範囲の重要な変更はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、これにより四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、化粧品の製造・販売事業とその他の事業を行っておりますが、その他の事業については金額的な重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。